

1-1		様式2	
主題	ご利用者が本当に望んだ外出		
副題	いつ行くの・・・今でしょ!!		
地域資源		個別ケア	
研究期間	5ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム 日の出紫苑
発表者：市川 好行		アドバイザー：高橋 秀夫	
共同研究者：泉 洋平			
電話	042-597-1941	メール	hinodeshien@outoukai.or.jp
FAX	042-597-1949	URL	

今回発表の事業所やサービスの紹介	平成8年、東京都西多摩郡日の出町に開設。法人理念『人と社会に心安まる灯（あかり）をともし』のもと、利用者100名ショートステイ4名の安全・快適な生活を援助している。平成19年に武蔵村山市にデイサービス、大田区にグループホームと認知症デイサービスを開設。平成22年にも世田谷区にグループホームと認知症デイサービスを開設し、ご利用者さんの多様なニーズに応えるべく法人として成長しております。
------------------	---

《1. 研究前の状況と課題》 【研究前の状況】 平成22年4月より「外出機会の増加・社会との繋がり」が介護課の重要課題と考え、「外出支援」を取り組んできた。 外出委員会を設置し「ディズニーランド」「カラオケ」等、定期的な外出行事を実施し積極的に外に出ることをおこなってきた。 結果、外出機会が23年度の外出参加100件から24年度では200件に増加した。 【課題】 24年度に大幅に外出機会が増加したが、地域との繋がり（施設周辺の地域）や利用者の希望に沿った外出が少なく、職員主導の外出機会が多くなってしまった。 「職員主導の外出機会をご利用者が本当に望んでいるのか」「外に行けばご利用者は喜ぶが、行きたい場所なのか」と考えると課題が残る。	《2. 研究の目標と期待する成果・目的》 【目標】 ・地域資源発掘を通し、地域社会に生きる施設をつくる。 ・地域資源を活用し、ご利用者の望んだ場所にいく。 【期待する成果・目的】 ご利用者 ・本当に望んだ場所にいける。 ・社会との繋がりを持ち、現在住んでいる地域を理解できる。 職員 ・個別ケアサービスの向上。 ・外出支援のあり方を考え直す。 ・施設としての外出機会と捉えず、ご利用者ひとりひとりの外出機会と捉える。 ・「特養だから・・・」という、固定概念の脱却。
---	---

《3. 具体的な取り組みの内容》

●平成 25 年 1 月（外出機会の計画）

・24 年度に設定した「外出機会の増加 5%UP」は達成したが、「ご利用者の希望に沿った外出が出来たのか」と課題がでてきた。

その為、「職員主導の外出機会」ではなく、「ご利用者の要望を叶える外出機会」を計画する。

●平成 25 年 2 月（アセスメント・アンケート実施）

・介護課職員にアンケートを配布

①施設周辺の地域資源を職員 1 名につき 8 ヶ所以上みつける。

②担当利用者の「行きたいところ」「やりたいこと」をアセスメントする（全ご利用者対象）。

③意思を伝えられない利用者には経歴やご家族から話を聞く。

・アンケート集計

月に一度おこなっているフロアーミーティングにて発表。利用者アセスメントでは「ハワイに行きたい」「温泉に行きたい」「お墓参り」「猫カフェ」「イチゴ狩り」等様々な要望があった。地域資源では、施設周辺に様々な資源が発見できた。

アンケートの中で地域資源とご利用者の要望の合致するものを職員に選んでもらい利用者を 1 名選定した。

●平成 25 年 3 月

車椅子使用のご利用者で「温泉に行きたい」と希望された方と「瀬音の湯」という近隣の温泉施設へ職員 1 名と外出。

温泉入浴後、食事をして秋川溪谷を散策。

●平成 25 年 4 月

介護課の目標を「個別外出」と設定。

ご利用者アセスメントに重点をおき検討し、地域の資源を活用しながら「ご利用者の希望に沿った個別外出」を実施。

毎月、フロアーミーティングにて個別外出の実施報告とアセスメント状況の確認をおこなう。

◎個別外出での費用

平成 25 年度の予算に個別外出の予算を組み込み、職員の外出先でかかる費用は施設にて捻出。ご利用者は実費負担。

《4. 取り組みの結果と考察》

・平成 25 年 6 月末現在 10 件の個別外出を実施。

・ご利用者の要望に沿った外出を行うことで「もう 1 回行くか」「死ぬまでに行けると思わなかった」等のご利用者からの声が聞かれ、職員主導での外出とは違った反応がみられた。

・介護職員からは「ご利用者が行けると思わなかった」「ご利用者も楽しんでいたが、職員も楽しい」との声が聞かれた。

・介護職員以外の職員からは、個別外出に参加されたご利用者に対して「楽しかった」「どこに行ったの」「今度はどこに行くの」等の声があり、ご利用者に対して施設全他での関わりが増えた。

・職員が担当利用者に関わる時間が増え、担当意識を今まで以上に持つようになり、「個別ケア」に取り組むようになった。

《5. まとめ、結論》

・自施設周辺の地域資源を自分達で調べ、利用者の要望と合致する場所へ外出することができた。

・職員がご利用者と一緒に考え、予定を立てることで双方が楽しみをもって外出を実施できた。

・外出を好まないご利用者や身体的に外出が難しいご利用者に対しての取り組みが必要。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《8. 提案と発信》

「特養だから・・・無理」だと思わず、職員全員で協力することで「個別ケア」「個別外出」は可能です。利用者個々の声に耳を傾け「本当に望んだ外出」を実施してみてください。

【メモ欄】